〔第三種郵便物認可　大正十二年三月二十二日印刷　大正十二年三月二十五日發行〕

昭和十年四月二十三日　磐城新聞　〔火曜日〕　第四千三百四號　〔一〕

隨筆

ヒゲについて一言

史寒士

二

却說すこし遡つて案ずれば大楠公のヒゲだ　しかし出來ない。多分は故らにヒゲの中剔をやらかしたのかも知れぬ

當公のヒゲは天下周知の天神ひげで今日尚ほ文人韻士墨客の間には嚴然に繼承せられ畏敬の一派をなしてゐる

公卿のヒゲは所謂『麿ひげ』といふ獨自にして特殊のもつとも奇異な感にうたれるヒゲに纖公のそれがある。それはこの兩端から細く長く弧狀を描いてスンナリと伸びてゐるが、六朝風の隷体に似た八の中間に毛がなかつたとは迚ても首肯出來ない。多分は故らにヒゲの中剔をやらかしたのかも知れぬ

分は無禮な言ひ草だが史書に納かれた大楠公のひげは誇張に過ぎてゐるではなくて彼のかた薄毛をとゞめることだといふ）といふと妙に可笑しく卑陋に響くが、毛の薄い人よりは深毛の方が、女はなからしさを增し、男は眞に男らしく見榮えるものである。之即ち『なさけ深い』譯かも知れぬ

閑話休題　近頃の青年、中年の諸卿は甚だ輕りなさゝうなヒゲをたてゝゐる。謂ふ處のチャップリンひげチョビひげの類がそれだ。喜劇の効果を高める爲に仕繰つたチャップの愛嬌ヒゲを、瀟洒たる近代紳士がその儘に踏襲して街道を濶歩する姿は、凡そチャップの喜劇以上に滑稽であり、彼の喜劇と同樣に惡笑を禁じ得ない反面がある

お馴染の童話の先生、川崎小烏君の樣な蒼色の山羊ひげもあれば同君の書生坂本君のように毛數少や疎ばらで地（牛？）のよく見える學者ヒゲもある。赤井君のなどは一見平凡ではあるがヒゲの傳統を多かれ寡かれ介意してゐるから謂はゞ時代性があつて落着いてゐる

磐城歌壇

新妻久滿男選

『つみ草』

星影愛子

○草摘みてたどりつきたる坂道に、母校の棟を仰ぎみるかな

○そのかみの學びの友と嘯きし、道邊にひとつタンポヽの花

○ピアノ音に湧きくる遠き思出を、胸にはぐくみなつかしみける

◎若草にぬぐ白足袋の汗ばみて、素足を通る春風のよさ

○草原に臥すぬくとさやこそばゆく、我が面撫でゝ春の風すぐ

◎家に待つ母へ跨りてしめしせむ、包みあまれるこのたらの芽を

◎湯上りの輕き勞れの心地よさ、草摘み染めし爪鋏み切る

寸評　一般に調べひの上に無理な技巧が織り込まれてゐるが、初學者には反つて一首の感を殺ぐ結果となる。自己にのみ或る感激を覺え、或ぼ思出をなつかしむ樣な特殊の材料を歌にする場合には、よほど感情を選擇整理して表現を試みなければ、普遍的な感興が生れて來ない。二首の丸は面白いと思つた歌材である。最後から二首目は、母の喜ばれに浮んでくる樣な歌である。

五月題詠として　五月五日締切

『摘草』『宵』『春雜詠』

（歌數隨意）

花期阻雨

珠雲　小野務平

百花競艷入清明
忙裏偸閒擬獨行
何事朝來雪氣合
四檐點滴一聲々

又

櫻雲爛處聽鶯歌
應惜春光一夢過
生怕濛々連日黯
朝來滴瀝雨聲多

青年學校ニ就テ

無名士

一

今回勅令を以て青年訓練所を廢止せられし青年學校が新設せられることになつた、之に就ては其々研究中であるから委しいことは近來の實業補習學校及青年訓練所を一所のものにした青年教育機關となし、且施設大方の參考に供したいと思經營を單一にし以て青年

ふ。勿論自分の研究も淺薄であるから不十分な點が多々あるだろうことを御了承願ひたい

扨て青年學校の新設は從來の實業補習學校及青年訓練所の特質を取り交せの境遇に適應する如く定められたものである

左に其大要を述べて見よう

一、青年學校は男女青年に對して教育訓練を行ふことに定められた、そして其目的とする處は男女青年の心身を鍛練し德情を涵養すると共に職業及實

育の進展を圖らんとするものであつて青年放育の重要學校に比しては著しく簡易性に鑑み實業補習學校及青年訓練所の特質を取り交せの境遇に適應する如く定められたものである

左に其大要を述べて見よう

一、青年學校は男女青年に對して教育訓練を行ふことに定められた、そして其目的とする處は男女青年の心身を鍛練し德情を涵養すると共に職業及實

際生活に須要なる知識技能を授け、以て國民たるの資質を向上せしむるに在る

二、青年學校は普通科及本科とし研究科及專修科を置くことを得但土地の情況に依り普通科又は本科のみを置くことを得

○普通科、本科何れかを欠くを得る市町村等の區域内に於て入學該當者の僅少なる場合等である

潮聲硯靜抄帳

磐城俳句會

春めくや朝餉の煙のたなびきて　水明

遠ひゞく馬橇の鈴や冴え返る

道凍てゝひねもすとけぬ二月かな

明け渡る山紫に春めきぬ　日もすがら夜もすがら風の二月かな

寒燈にひとり佗びしも湯のたぎる　松堂

寒燈に眼とづれば心冴ゆ

寒燈の靜けさにあり鳩時計

北風暴れてするとくひかる斗星かな

北風暴れて亂礁を呑む怒濤かな

磐城歌壇

新妻久滿男選

『つみ草』

星影愛子

○草摘みてたどりつきたる坂道に、母校の棟を仰ぎみるかな

○そのかみの學びの友と嘯きし、道邊にひとつタンポヽの花

○ピアノ音に湧きくる遠き思出を、胸にはぐくみなつかしみける

◎若草にぬぐ白足袋の汗ばみて、素足を通る春風のよさ

○草原に臥すぬくとさやこそばゆく、我が面撫でゝ春の風すぐ

◎家に待つ母へ跨りてしめしせむ、包みあまれるこのたらの芽を

◎湯上りの輕き勞れの心地よさ、草摘み染めし爪鋏み切る

寸評　一般に調べひの上に無理な技巧が織り込まれてゐるが、初學者には反つて一首の感を殺ぐ結果となる。自己にのみ或る感激を覺え、或ぼ思出をなつかしむ樣な特殊の材料を歌にする場合には、よほど感情を選擇整理して表現を試みなければ、普遍的な感興が生れて來ない。二首の丸は面白いと思つた歌材である。最後から二首目は、母の喜ばれに浮んでくる樣な歌である。

五月題詠として　五月五日締切

『摘草』『宵』『春雜詠』

（歌數隨意）

花期阻雨

珠雲　小野務平

百花競艷入清明
忙裏偸閒擬獨行
何事朝來雪氣合
四檐點滴一聲々

又

櫻雲爛處聽鶯歌
應惜春光一夢過
生怕濛々連日黯
朝來滴瀝雨聲多

潮聲硯靜抄帳

磐城俳句會

春めくや朝餉の煙のたなびきて　水明

遠ひゞく馬橇の鈴や冴え返る

道凍てゝひねもすとけぬ二月かな

明け渡る山紫に春めきぬ　日もすがら夜もすがら風の二月かな

寒燈にひとり佗びしも湯のたぎる　松堂

寒燈に眼とづれば心冴ゆ

寒燈の靜けさにあり鳩時計

北風暴れてするとくひかる斗星かな

北風暴れて亂礁を呑む怒濤かな

山の怪秘

戸隱奇譚

丸山寬雄作

(164)

眞木浪畝人形芝居奇遇（五）

『お前は？』

平七郎は捉へたお豐の姿が生人形だと知つてバッタリ手を離して床へ投げたその瞬間である。横合から飛びついたヤマトの顏が直ぐには見わけかねた

『おゝ、平七郎樣、暫くでございました』

ヤマトはいきなり縋りついた

『圓岩の太郎の妹ヤマトでございます』

『おゝ、ヤマトか……』

平七郎は漸く意識する事が出來た

『刈馬樣、お豐樣はこの中に居てられます。さ、早くお逢ひ下さいまし』

ヤマトは樂屋口へ飛んだ

平七郎は事の意外に愕きながらも、夢の中を馳せ巡る心持ちでつゞいてあとから入つて行つた

そこに衣裳を疊んでゐたお豐はいきなり駈け込んで來たヤマトの狂喜した顏を見た。つゞいて夢寐にも忘れ得ぬ刈馬平七郎の顏を……

『お豐樣、刈馬ですよ』

ヤマトが云ひも果てぬうち平七郎はぶつかる樣にお豐をしかと掻き抱いた

『お豐、暫くだつた……』

あとは涙聲である

お豐はたゞ肩をふるはせて絕ゆるばかりに泣きつゞけた。萬感胸に迫つた嬉し泣きに非ずして何であらう

と告げた

愕然とした三人は時を移か。川中島で別れて以來二人の運命行路は今日に至るまで敢果なくも相距つてゐたのだ

そこに馳せ附けた太夫元も、かねてこの事情を承知してゐたので殊更に座を外して見事に咽喉笛を掻き切つた。やがて舞臺ではまたたゞところだつた次の演藝がつゞけられるのであらう。鳴物の音が聞えて來た

太郎も出て來たが、このたゞこのヤマトは、これが自涙ぐましい情景に、たゞ呆然の運命でございます。どさい』

太郎がかう云つたとき俄かに舞臺裏に慌たゞしい音がして一人の座方の者が血相變へて飛込んで來た

『大變です。太郎樣、ヤマト樣が今奈落で自害なされました』

就テ

磐城歌壇

新妻久滿男選

『つみ草』

星影愛子

○草摘みてたどりつきたる坂道に、母校の棟を仰ぎみるかな

○そのかみの學びの友と嘯きし、道邊にひとつタンポヽの花

○ピアノ音に湧きくる遠き思出を、胸にはぐくみなつかしみける

◎若草にぬぐ白足袋の汗ばみて、素足を通る春風のよさ

○草原に臥すぬくとさやこそばゆく、我が面撫でゝ春の風すぐ

◎家に待つ母へ跨りてしめしせむ、包みあまれるこのたらの芽を

◎湯上りの輕き勞れの心地よさ、草摘み染めし爪鋏み切る

寸評　一般に調べひの上に無理な技巧が織り込まれてゐるが、初學者には反つて一首の感を殺ぐ結果となる。自己にのみ或る感激を覺え、或ぼ思出をなつかしむ樣な特殊の材料を歌にする場合には、よほど感情を選擇整理して表現を試みなければ、普遍的な感興が生れて來ない。二首の丸は面白いと思つた歌材である。最後から二首目は、母の喜ばれに浮んでくる樣な歌である。

五月題詠として　五月五日締切

『摘草』『宵』『春雜詠』

（歌數隨意）

花期阻雨

珠雲　小野務平

百花競艷入清明
忙裏偸閒擬獨行
何事朝來雪氣合
四檐點滴一聲々

又

櫻雲爛處聽鶯歌
應惜春光一夢過
生怕濛々連日黯
朝來滴瀝雨聲多

潮聲硯靜抄帳

磐城俳句會

春めくや朝餉の煙のたなびきて　水明

遠ひゞく馬橇の鈴や冴え返る

道凍てゝひねもすとけぬ二月かな

明け渡る山紫に春めきぬ　日もすがら夜もすがら風の二月かな

寒燈にひとり佗びしも湯のたぎる　松堂

寒燈に眼とづれば心冴ゆ

寒燈の靜けさにあり鳩時計

北風暴れてするとくひかる斗星かな

北風暴れて亂礁を呑む怒濤かな

山の怪秘

戸隱奇譚

丸山寬雄作

(164)

眞木浪畝人形芝居奇遇（五）

『お前は？』

平七郎は捉へたお豐の姿が生人形だと知つてバッタリ手を離して床へ投げたその瞬間である。横合から飛びついたヤマトの顏が直ぐには見わけかねた

『おゝ、平七郎樣、暫くでございました』

ヤマトはいきなり縋りついた

『圓岩の太郎の妹ヤマトでございます』

『おゝ、ヤマトか……』

平七郎は漸く意識する事が出來た

『刈馬樣、お豐樣はこの中に居てられます。さ、早くお逢ひ下さいまし』

ヤマトは樂屋口へ飛んだ

平七郎は事の意外に愕きながらも、夢の中を馳せ巡る心持ちでつゞいてあとから入つて行つた

そこに衣裳を疊んでゐたお豐はいきなり駈け込んで來たヤマトの狂喜した顏を見た。つゞいて夢寐にも忘れ得ぬ刈馬平七郎の顏を……

『お豐樣、刈馬ですよ』

ヤマトが云ひも果てぬうち平七郎はぶつかる樣にお豐をしかと掻き抱いた

『お豐、暫くだつた……』

あとは涙聲である

お豐はたゞ肩をふるはせて絕ゆるばかりに泣きつゞけた。萬感胸に迫つた嬉し泣きに非ずして何であらう

と告げた

愕然とした三人は時を移か。川中島で別れて以來二人の運命行路は今日に至るまで敢果なくも相距つてゐたのだ

そこに馳せ附けた太夫元も、かねてこの事情を承知してゐたので殊更に座を外して見事に咽喉笛を掻き切つた。やがて舞臺ではまたたゞところだつた次の演藝がつゞけられるのであらう。鳴物の音が聞えて來た

太郎も出て來たが、このたゞこのヤマトは、これが自涙ぐましい情景に、たゞ呆然の運命でございます。どさい』

太郎がかう云つたとき俄かに舞臺裏に慌たゞしい音がして一人の座方の者が血相變へて飛込んで來た

『大變です。太郎樣、ヤマト樣が今奈落で自害なされました』

然として立つてゐるばかりうかお二人とも御幸福に……である。ヤマトはいつの間……』

にか其場を外してゐた

『刈馬樣、お芽出度う存じます』

羽尾太郎は自分のことのやうに俄かに笑顏になつて云つた

『これは、太郎殿か、此度れがヤマトの運命だつたのは色々と有難うござる。皆樣のおかげでこんな嬉しいことはありませぬ。また圓岩では思はぬ御世話になりました。頰の傷も今ではこの通りよくなりました』

平七郎は横を向いて見せた。もうその顏は生れ變つたやうに生き生きと輝いてゐた

『それは重畳です。これからは精々御幸福に御暮し下

命を知つて死を選んだのだつた。兄の太郎が取りついた時

『兄樣、妹の身で先立つ不幸をお赦し下さいまし。こと、杜絕え勝ちに云つた

と、杜絕え勝ちに云つた

刈馬平七郎も、お豐も言葉なく暗然としてヤマトの死を見守つた

太郎はその息の杜絕えたのを見てその場に打伏しつまでも號泣動哭した

春の洋服。レーンコートは
信用堂へ!!!

特賣中

背廣服（三ツ揃）　三十圓
レーンコート　四圓
バーバリー　二圓
ニット　十二圓
チンレート　三圓
女學生用コート　五圓

平町三丁目一〇
信用堂洋服店

産婦人科
花柳病科
午前宅診
午後往診
入院應需
井坂醫院
平町紺屋町
平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

銘木ト建築木材ノ御用命ハ
今一番勉強スル當店へ
平町紺屋町
內外建築材一式便利
未織田材木商店
電話四六〇番
棚優良材甚將棋盤アリ格安讓リタシ。

今年もお馴染の
横濱植木會社特選の
ハナのタネが
參りました。何れも
輸出向優良種子です
西村屋藥局
種子部
平2・電3・

外科
內科
內臟外科
レントゲン線
醫學博士　諸橋鐵彌
新川町二七（電四六四）
▷病室完備◁

內外建築材具
阿部材木店
磐城國平町（公園下）
阿部好利（改メ）
電話四九四番

磐城家庭婦人會
皆樣方の御手不足を補ふ家庭婦人會が出來ましたどうぞ御試用下さいませ。
親切。迅速。
會員募集（入會金ト維持費）（ハガキ申受マセン）
平町字田町五（元郵便局ウラ）
駒井ヒデ
電話三九九番（呼出）

特製男女通學服！特價提供……
男子一年生用紺サージ三、九〇ヨリ　綿サージ一、六〇ヨリ　小倉同一、四五ヨリ
女子用サージ三、三〇ヨリ　綿サージ一、六五ヨリ　男女防水高袋一、三〇ヨリ
其他春物新荷豐富取揃
洋服は高島屋
注文並に既製品
高島屋洋服店
平町二丁目電話三八六番

吸入用酸素　純度99%
長量衡
モノサシ
マス
ハカリ
體重計
體溫器
寒暖計
◎秤ノ取扱
◎繩・糸・修理致シマス
開內藥局
電話四〇番

耳鼻咽喉科專門
平町南町一六番地
大和田醫院
電一七〇番
（入院隨意）（病室完備）

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
郡山驛より約三十丁
安積中學より約五丁
郡山市外大槻村針生
郡山腦病院
電話九二五番
院長　醫學士　金森五郎
入院隨時

自轉車ハ左記
有名車を御撰擇下サイ。
世界的ニ進出セル
◎宮田ノ自轉車
夙ニ堅牢輕快ノ定評アル
◎ゼブラノ自轉車
實用經濟車トシテ好評アル
◎マーノ自轉車
◎マーツ號ノ好評ヲネタミ羊頭灼肉ノ策ヲ用ヒ偽物ヲ販賣ナシ商標ヲ侵害ナシツヽアル者アリ法的解決ニヨリ御得意樣ノ御了解ヲ得ン
宮田代理店
ゼブラ代理店
マーツ代理店
エビスヤ商店
電六六四

月曜論壇

市制調査會寸感

平町の市制施行調査會なるものに二千圓の豫算を計上した事が、將來の施設計劃上當を得たるものかどうか、其の多寡は姑く論外とするも、根が市に準すべき地方の一小都市として町村制に定められた最大限度の三十頭顧を網羅した大町會を有し乍ら、敢て之種の機關を設くる事は、自ら立派な町會の儼存を否定するものとして調査會設置の眞意那邊に在るかを疑ひつゝも畢竟複雜なる町行政機構の内容は吾人門外漢の窺知すべからざる機微を有するものとして徐に爾後の推移に張瞷明目したのであるが、今や既に新年度の初月を終らんとしつゝあるに拘らず未だ之に關する何等の關策あるを耳にせぬは、今更該機關創設當時に於ける吾人の懷疑を深からしめられざるを得ないものがある。由來吾等の青沼町長は土地生え抜きの地方爲政家として從來幾多の洗練彫琢を經た稀覯の人材であり、少くとも有りふれたる町議級を對象としてその嘲笑に關心する事なく、毅然として悠揚たる態度を以て綽々町政を處理すべき立場に在り乍ら、靈爾たる町議會の肩書に誤れる優越感を懷いて往々陳腐同の辯を弄むる一部徒輩と應酬の煩に堪へぬ爲か、動もすれば所謂總花主義の懷柔政策を以て大向ふの顔色を氣遣ふ雖あるものの如き取沙汰無きに非ず、町の議決機關たる町會の外、些か屋上屋を架する傾向ある該調査會の設置も或はこゝに出發したる無きやを疑はれて居る丈け該機關の運用に就ては苟も他の肯綮に當らぬ如き節あつてはならぬと同時に町長の負託を負ふて人選された四十名の委員は平々凡々徒に空名を擁する事無く相互に督勵鞭撻以て眞摯なる職務の遂行に邁進せぬばなるまい。結果を論ずるに時期尚早の感はあるが寸懷を叙して同會の効果的な活動を望む事爾り

開放された昨日曜を　春惜む全園の人雪崩

迷子！喧嘩！芋の子を洗ふ大混雜

散る花と共に平の春は昨二十一日の日曜を以て最後の一大賑ひを見せた、午前九時五十八分着で既報の如く田町紅椿連約二十餘名に出迎へられた助川方面の團体約六百餘名は直に大通りを公園に乘り込み、其他大小四十餘組の觀櫻會と共に全園を歡樂境化した、此の雜沓で迷子が二件、喧嘩男が七人も平署の厄介になつた

○點以上採點を了り多數觀衆の歡呼裡に夫々飛揚したが當日第一の呼び物として期待された凧男川俣町小松大吉さんの凧乘りは風の具合で實演するに至らず少からず觀衆を落膽せしめた

乘降約一萬三千

假ホームの下車其他

今三春の最高記錄を示す

當日の人出を見越した平驛計七百七名で其他上り方面では既報の如く臨時列車を合せ昨一日中を通算すれば平第一校に開き左記及び仕立て例年の如く公園下には乘六千六百五十名、降六千二百八十七名、合計一萬假停車場を特設乘客サーヴイスに努めたが下り午前九時五十八分着で驛に下車した千百二十一名の外該假停車場に下車したのが下り午前九時三十三分着二八二名、同十時二十八分着一七一名、同十一時一分二五四名

主催の官民合同觀櫻會は二十日午後一時から同町富ケ浦公園に催したが參加二百五十名で賑はつた

小名濱觀櫻會　小名濱町

鮫川水利組合臨時總會

事業費十三萬圓借入決定

鮫川水利組合臨時總會は既報の如く一昨二十日午前十時から平四体郡務所に開き給者が決定される筈

鮫川水利組合臨時總會は既附議可決した、尚工事は組合請負で近くこれが材料供合長一本松町より小名濱町に向しが遂に死亡したので享は十年度豫算十一萬二千四百九十九圓の事業費寄附並に國庫補助立替金として大藏省預金部より十二萬九千七百圓を年七分一厘で借入、泉村上遠野豊次郎氏より水路敷地として玉川村大字南富岡字下の前地内田二反一八歩の寄附採納外十年賦償還其他數件を

經濟更生村

郡下四ケ村追加

本郡に於ける十年度經濟更生指定村は二十日縣廳で開かれた經濟更生委員會で左記四村に決定

山田村、夏井村、鹿島村、好間村

教務主任會

廿六日第一で開催

郡内教務主任會は既報の如く來る二十六日午前十時より平第一校に開き左記及び寄りの協議題により打合せを行ふ外午後一時より縣女子師範附屬小學校主事沖原の陰から街道を横切らんとした處折から乘客六名を豫防デー實施に關し協議す

主任として活動すべき範のせた同町三丁目平クシる

國、國民精神涵養上修身ー方運轉手遠藤義彌(三七)運國史國語科取扱につき注轉の小名濱行き貸切自動車意すべき點、兒童養護上に轢き倒され胸部、顏面に衛生施設につき特に努力源死の重傷を負ひ直に新川を要する事項、尊ー改訂町踏橋外科醫院の應急手當算術教科書研究會開催、たが成績左の如し本年度講習會に對する希(一等)四家一　(二等)渡望　邊喜三郎、青木武雄、(三等)佐藤忠重、福岡三津男　(四等)松崎寛、渡邊敏行

優良運轉手

昨大會で表彰さる

昨二十一日中村町相馬中學校で開かれた縣下自動車協會大會に於て表彰された優良運轉手本郡關係者左の如し

△平支部松崎正明、佐藤一雄、吉川勉、鈴木文雄濱松章、橘谷田潔△植田支部蛭田俊雄、館勇三△四倉支部山崎貞吉

◦◦◦◦　草野射撃大會　草野村在郷軍人會分會では二十一日の紀元節を卜して射撃大會を催し未教育兵の射撃大會を催したが成績左の如し

(一等)四家一　(二等)渡邊喜三郎、青木武雄、(三等)佐藤忠重、福岡三津男　(四等)松崎寛、渡邊敏行

◦◦◦◦　衛生主任會　平署管内衛生主任會は二十四日午前九時から同署會議室に開き春季清潔法日割決定並に結核

踊り子をヒロインに

作者の言葉

職業婦人のうちで最も尖端的でありインテリであるのはダンサーでせう。さうしてあらゆる營業のうち最もモダンであるのはダンスホールでせう。私のこの作はそのダンサーとダンス・ホールとに取材して作つた探偵小說であります。あらゆる犯罪のうち最もセンセーショナルなものは殺人事件でおらねばなりません。この作はその殺人事件をとりあつかひました。この作に現れて來る人物には極めて人情的でありみちめであるところのダンス・ホールの靴磨きの老人などがあります。華やかにして享樂的なるダンス・ホールの玄關に、貧しきために却つて日本獨特の古風の人情家であるところの靴磨きの老人を存在させたことはこの作を特に異色的にしたことと思ひます。作者たる私はダンス界に出入して七年になります。この世界のことはつぶさに知悉してゐる筈であります。で、この作に書かれてある事は、およそ私の知悉してゐる事であります。ですからこの作は極めて實感的のものと言ひ得られます。

次回讀物豫告

誰が殺したか　國枝史郎作

追突して頭を割る

過失致死の運轉手に

罰金五十圓の略式命令

小名濱町中ノ坪五野口末松を認め警笛を鳴らしたが幾方自動車運轉手玉川村生れ分精神に異狀あり耳の遠い武田享(三五)は去る二月十六ため氣の付かぬヨシにそれ日福島市に魚類を輸送の歸以上の警告注意する事なく途、同十七日午前九時頃空進行したゝめ追突、頭部激トラックを運轉して安達郡打顚倒せしめ頭蓋骨折でヨ『爭』の種を播いて逝つたキ爭ひが起り遂に訴訟沙汰に

荷馬車の蔭から　飛び出て轢かる

四つの娘手當効無く絶命

小名濱町中ノ坪五野口末松を認め警笛を鳴らしたが幾方自動車運轉手玉川村生れ分精神に異狀あり耳の遠い武田享(三五)は去る二月十六ため氣の付かぬヨシにそれ日福島市に魚類を輸送の歸以上の警告注意する事なく途、同十七日午前九時頃空進行したゝめ追突、頭部激トラックを運轉して安達郡打顚倒せしめ頭蓋骨折でヨ『爭』の種を播いて逝つたキ爭ひが起り遂に訴訟沙汰に

恐喝住居侵害で送檢

胸納らぬ實十彌右衛門

元平第二小學校訓導矢吹キ彌右工門(三九)が酩酊の上ク女が在職三十餘年間粒々辛苦貯えた約二萬五千圓の住する叔父の矢吹喜藤治(五遺産を繞る骨肉紛爭は先年[illegible]方に土足のまゝ侵入該遺平區裁判所に於て示談成立產問題に關し『財產は俺のしたものゝ未だ圓滿解決にものだから引渡してくれ』至らぬので關係者の視聽をと怒號し所持のグリーナ式あつめてゐたが去る十三日狩獵銃を椽板に向け發砲し午後十時頃同問題の中心人恐喝した事件突發により拉物たる同女の長男夏井村大にまた〳〵再燃するに至つれ字荒田目字石崎一六農矢吹た

二萬五千圓を繞る　醜い叔父甥の爭ひ

故矢吹第二訓導遺產問題

昨日の凧揚大會に　大物壯二張が出場

風加減で離れ業は見合す

目下開館中の博覽會を飾る凧揚大會は昨二十一日午前十時半から同館裏谷川瀨田で催されたが參加數二十三張、骨組、圖案で審査結果入賞者を左の如く決定した

(一等)川俣町、一平城益之助『曾我五郎』二八〇點
(二等)好間村永山一松『櫻』二六〇點、平町南町梅田正年『サクラ』二六〇點　(三等)平町四軒町松浦貫右工門『國防博』二四

鄕土の史的時事解說　(二)

白水阿彌陀堂の第二回修理

本堂宇の特別保護建造物並に內境安置五佛像國寶各指定に就て

(七)

勿來生

或は飯野文書の建武元年九月七日、八幡宮造營註文に見る『八立村地頭岩城次郎入道顯眞』か。又後出の太平記に云ふ次郎も亦名を欠記するが、何れも朝義の時代を指すに似てをる。朝義、常朝、貞光(貫は時光の弟)曆應四年(北朝、二〇〇二)たの寫しでもあるから、時代六月三日卒

義光(時光の子)母當朝義賴臣女、脅氏に屬し、建武三年六月五日、山門西坂元等に戰ひ、地藏堂前に敗死、夫人岩城二郎平常朝臣女(石川系圖)

但し右は謂はゆる系圖の抄錄所收)

左示のものは予が實見したのでなく、謂はゆる棟札の寫しでもあるから、時代的の古文書から比較すると些しく怪しい點なきにしも非ずだが、姑らく假拘して後考に任す

平氏朝臣左馬守隆久(元亨二年二月、絹谷村青瀨觀音堂棟札)〔岩城志案

尙ほ右の左馬守は按ふに左馬助で、又其の者は岩崎の本主であらう

尼子タクシー

流線型入車

御待ち兼ねの卅九年式流線型第一車が入車致しました。是非御試乘をお願ひ致します。

電話六四〇番

國は日本。凍魚はヒノマル

ヒノマルマ◉ル　凍魚

日本水產一手特約　發賣元　平製氷株式會社　番話二二八・三一六番

鯛。海老。白魚。刺身魚、煮魚、各種品々一個一尾ニテモ迅速配達……　イカ

平町代理店　印魚問屋　電話五二八番

お嬢ちやんお坊ちやん方の可愛らしい通學服を豐富に取揃へ特價提供

新學期　通學服賣出

男兒用
紺サージ金釦服…3.60ヨリ
上口黑小倉服…1.60ヨリ

女兒用
紺セルセーラ服…2.60ヨリ
紺サージ制服…3.60ヨリ

平三電203　呉服洋品店　ふかや

美線流の眞

グロ化を排してクローム直線の交又も美しき
35年型拔群の
陸の王者　入荷
流線ダツチ

彩りも花と艶を競ふ……銀ネヅミ
御試乘下さい
素晴らしい乘心地を！
東京鐵道局公認
タクシー二不

番二三話電

流行ノ下駄ト草履ハ！
ドコヨリ安イ
南町　三井ハキモノ店
(小僧さん入用)

內臟外科一般　(入院隨意)
外科花柳病科
平町六丁目(橋際)
木村外科醫院
電話三〇九

磐城名物　靈峰羊羹

小川鄕驛前　平屋賣店

廣告

判定施術
東京市本鄕區湯島四丁目五番地
湯島醫總本部　神試館

▲一白の人　少し苑は皆き方に向へども無理は通し難し▲二黑の人幸福に滿ちたる日にて內外共に吉たるべし▲三碧の人　目上の引立に逢ふ日我慾に惑れば困となる▲四綠の人　人の力を借らず熱心に己が分限を以て進め▲五黃の人自然の幸福の增遊し來る日始業普請旅行等吉▲六白の人　一喜一憂出入も亦常ならざる日萬事に注意▲七赤の人　辛抱足らざる時は積日の効を捨つるに至る▲八白の人運氣强く是までの雜事も一掃せらるゝ吉日▲九紫の人　遲々たる運氣を怠らざれば夕までには伸る